

ポスター発表「小学校への動物の赤ちゃんの授業実践報告」 ～牧場飼育員による出前授業の可能性～

今谷 衣都香



1 はじめに

私は小学生の頃、学校で6年間羊のお世話をしていました。それが動物を好きになるきっかけとなり、飼育員という道を選びました。現在は神戸にある六甲山牧場という観光牧場で、約160頭の羊の飼育員をしています。また牧羊犬でのショーや動物触れ合いイベントなども行っています。

そんな私が近隣の小学校へ出前授業を始めたのは6年前のことです。牧場で作った堆肥を小学校の畑に使って頂き、堆肥と動物の授業を行ったのが始まりです。現在は、小学校や高校、幼稚園にも動物の授業やお話をする機会が増えていきました。

そして今回ご紹介するのは、今年の2月に小学1年生を対象に行った、「動物の赤ちゃんの授業」についてです。こちらの学校では羊やうさぎを飼育しており、六甲山牧場には毎年羊の毛刈りを依頼されています。その流れで学校から授業をしてほしいという提案がありました。授業をするにあたり小学校からの要望は、国語の教科書に載っている「動物の赤ちゃん」という内容に沿って、45分間の授業をしてほしいというものでした。

2 目的

私が授業をするにあたり重視していることが2点あります。飼育員の立場だから

できる動物の話を通じて、子供たちに“動物にどのように接してほしいのか”そして“命とは生きるとはどのようなことか”を伝えるのが目的です。

3 実践方法

(1) 事前の打ち合わせ

私は短い授業時間を最大限に使うため、授業を行う前に学校で打ち合わせを行います。担任の先生から子供たちの人数や性格・クラスの様子を聞きます。また、先生がどのような授業を望んでいるのか、どこを重視して話をしてほしいか、そして私が何を伝える目的で授業を進めていきたいかなどの打ち合わせを行います。

(2) 授業で使用する教材の準備

教室での授業では、実際に動物を連れてはいけませんので、教材がとても重要になってきます。子供たちが興味をもってくれるような、写真、羊毛、羊のエサ、羊のうんち、羊の動画など、見て触れて感じられる教材を準備しておきます。これらの教材は、動物たちの生きている証であり、ダイレクトに子供たちに“生きること”を伝えることができます。

(3) 授業での空間作り

子供たちにリラックスして発言をしてもらいたいという思いから、授業では机とイスは使わず、教室にレジャーシートを広げ青空教室の空間を作ります。

(4) 授業の具体的な流れ

では今回行った授業の流れを紹介します。(授業は小学校でも飼育されている、羊を中心に構成しました)

最初は“羊”とはどのような動物かを知ってもらうことから始まります。羊という文字だけを黒板に書き、「どんな動物かな？鳴き声は？どんな匂い？どんな性格？何を食べているかな？」などの問いかけを

します。子供たちには自由に発言をしてもらい、それを黒板に書いていきます。

そこからは教材を使用しながら、羊の生態や性質など本当はどのような動物かを説明していきます。

羊がどんな動物かを知ってもらったあとは、動物の赤ちゃんについてのお話をしました。牧場にて撮影をした、羊の陣痛から出産、子育てにいたるまでの動画を見てもらいながら解説。また子供たちにどんなことを感じたのか問いかけ、みんなで気持ちの共有を行いました。最後は飼育員として伝えたい“命”についてのお話をして終わりました。

4 結果

授業前に学校への事前リサーチをしたことにより、短い授業時間でもスムーズに目的に沿った授業をすることができました。またクラスの様子を聞くことはとても効果的で、授業を構成するのに役立ちました。

青空教室をイメージした教室作りでは、授業開始から子供たちとの距離が近くなり、表情もよく見え、リラックスした様子で発言も多くありました。

授業の最初に文字のみでどんな動物かを考えてもらう方法は、子供たちから様々な意見がありました。学校で羊を飼育していても、子供たちにはそれぞれの捉え方があるのだと、私も面白さを感じました。

そして羊がどんな動物か説明するときには、教材を使ったこともあり、よりわかりやすく伝わったと思います。例えば羊毛を使用したとき、子供たちは触ったり嗅いだりと興味深く観察していて、表情も笑顔が増えていきました。授業を進めるにあたり、子供たちのリアクションはとても大事にしており、子供たちが飽きることのないように進めるよう心がけています。

学校からの要望でもあった、動物の赤ちゃんのお話。動画を見てもらいながら、学校にいる羊がどのようにして生まれ、大きくなるために親羊がどんな風に子育てをしていたのか、伝えることができました。仔羊が生まれて20分もしないうちに立つと

いう話をしたときに、みんなとても驚いていて、「すごいね、強いね」などいろんな発言が飛び交いました。また生まれたばかりの仔羊の鳴き声は、よく聞く羊の鳴き声より声が高く、「可愛い！赤ちゃんだ！」とみんな興奮している様子でした。今回初めて動画を使用してみて、子供たちの反応がとてもよかったので効果的だとわかりました。

仔羊の最後には、羊だけでなく人も、親にどれだけ愛されて今この場所にいるのかという話に結び付けることができました。

5 結論

学校にいる飼育動物の話は、子供たちも身近に感じる事ができ、興味深く聞いてくれました。また、動物の赤ちゃんというテーマでは、命について今まで以上にわかりやすく伝えることができたと思います。今までは飼育員として、家畜動物が人に与えてくれていることに重点をおいて授業をしていました。しかし、動物の赤ちゃんで話した命の誕生は、人とも共通することがあり、生まれてきたかけがえのないものと認識してもらえたと思います。

授業の締めくくりにもいつも伝えている、“動物に優しく、好きになってね”以外で、“みんなを産んでくれたお母さんやお父さんにも、ありがとうや大好きと伝えてね”という話ができただけのも、このテーマだからこそだと思います。

6 補足

今回の授業では、動物の赤ちゃんに関する動画を初めて使用しました。羊だけでなく、去年は牧場にいる牧羊犬の出産があったこともあり、犬に関しても妊娠・出産・子育ての様子を映像で見てもらいました。肉食動物と草食動物での、子育てから成長の違いなど、知ってもらう事ができたと思います。犬は生活をしていても見かける機会が多く、家で飼っている子供たちも多かったので、伝えやすい動物だと改めて認識できました。

7 最後に

今回の授業は、学校が実際に飼育をして

いる動物について行いました。実際にお世話をして身近な動物だけに、興味深く授業に取り組んでくれていたと思います。それと同時に、身近けど知らないことが子供たちにとって多かったようにも感じました。学校で動物を飼う意味は、先生や学校それぞれに考えがあつてのことだと思います。私がこのように出前授業をしていく中で、その学校にいる動物のお話を飼育員の立場とするのは、動物の本当の姿を伝える

ことができ、効果的だと思いました。私はこれからも動物の優しく前向きで、ひた向きに生きる姿を、多くの子供たちに伝えていきます。授業時間が短くても、学校が動物を飼えない環境でも、“できることから”を合言葉に、動物の命そして自分の命も大切にしていける子供たちが増えるように、出前授業を続けていきます。

(六甲山牧場飼育員)

